

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792830036		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム ほうすい①		
所在地	福島県西白河郡矢吹町北町85番地		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着しながら、利用者様が穏やかに暮らして頂けるよう、町のボランティアの方々を毎月招いて音楽会や手品等を行って頂いている。また、毎月の誕生会や催し物への外出支援を行い、ご家族様へもお手紙にて近況報告している。
建物の構造を活かし両ユニット①②のホール間を行き来することができるので、利用者様を両ユニット職員全員で個々の状態把握をし、情報の共有に努め、より良いケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 法人では県内に多くの介護事業所を展開しており、各事業所の状況を詳細に把握し、全事業所が情報の共有をして質の高いサービスの提供に努めている。さらに法人では職員の資質向上に向けた職員研修体制が確立されており、職員も各自目標を持って自己研鑽に励んでいる。
2 事業所は地域密着型サービス事業所としての社会的役割を認識して事業を展開しており、地域住民との交流も円滑に行われている。防災訓練時や事業所の環境整備(豪雪時の除雪や植木の剪定等)には地域住民の参加協力があり、友好関係を築いている。
3 管理者を中心に全職員は仕事に対する意識が高く、利用者本位の支援に努めている。職員の笑顔と生き生きとした対応に利用者の表情も明るく穏やかな生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り前1.2ユニットの職員合同で法人・ホーム理念・ホーム目標を唱和している。理念を共有したケアの実践の取り組みにつなげるため、一日のスタートの心構えとして再確認に努めている。	理念は地域密着型サービスを踏まえたものとなっており、毎朝の申し送り時に唱和し全職員が共通認識をもって日々のサービスに実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、盆踊り、秋祭りなど利用者様と一緒に参加し、地域の方々に事業所の避難訓練して頂き協力を得ながらつながりを持っている。また、回覧板などにより、地域の情報を得ている。	地域の行事には利用者とともに参加し、交流を深めている。ボランティア(音楽会・歌の会・琴演奏等)も多く受け入れており利用者の楽しみとなっている。特に童謡の歌唱披露は利用者から好評であり毎回楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域包括支援センターでの情報交換の参加を通し、事業所の成果・役割を伝え、認知症の方の理解や支援に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開催し、ホームの状況を報告し、意見やアドバイスを頂き、スタッフ会議で職員全員に伝え、議事録も確認するようにして、事業所の運営やサービスの向上に活かしている。	運営推進委員は地域から広く選任され定期的に開催されている。事業所の状況・事故報告・行事・研修・防災訓練等広く協議され、各委員から毎回多くの提言があり、事業所運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の社会福祉協議会の情報交換に積極的に参加し、町の担当課(生活保護関係職員)地域包括支援センターの担当職員へ密に連絡し、相談しながら、連携を図り、協力関係を築けるように取り組んでいる。	職員は町の担当者とは利用者の生活相談や事業所の状況の報告等を通して、関係強化に努めている。町職員の事業所訪問もあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、伝達講習にて全職員が学び、認識を深めている。玄関の施錠、言葉による拘束等を絶対にしないケアを実践し、利用者様に寄り添う介護に取り組んでいる。	身体拘束排除のためのマニュアル等により、全職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアに努めている。言葉による拘束についても常に全職員で話し合い配慮している。日中は玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加している。また、管理者や主任が職員とコミュニケーションを図り、ストレスの軽減を行い、ストレスによる虐待が見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居されている方で、制度を利用している方はいないが、研修に参加し、職員に伝達し、報告書にて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の読み合わせを行い、理解して頂き、不安や疑問点は理解・納得して頂けるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には管理者はじめ、職員が話を聞くように努めるとともに、運営推進会議にできるだけ多くの家族に参加して頂き、意見を出して頂けるよう努めている。	家族の要望、意見等は面会時や状況報告時等あらゆる機会を活用して把握するよう努めている。職員は、利用者が些細なことでも言いやすい雰囲気づくりを心がけており、要望や意見は全職員で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議にて意見を出してもらい話し合っている。全職員が気軽に意見を出せる環境作りに努めている。	月例の「スタッフ会議」を通して職員の意向や要望を把握している。日常の業務の中でも職員は気づいたことをなんでも言える環境となっており、職員からは多くの意見が出されている。出された意見や提言は事業所の運営やサービスの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で永年勤続の表彰を行っているほか、職員の資格取得に向けた取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の経験に応じた研修に参加すると共に資格取得の為の模擬試験を実施する等、意欲の向上や介護の質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他事業所と交流する機会を設ける。他事業所との情報交換により、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでにご本人と向かい合い、不安や要望などに耳を傾け安心につながる関係作りができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでの話し合いを通して、家族様の思いを受け止めることができるように努め関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際にはご本人や家族様の希望や困っていることを汲み取り、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を通し、家族の一員として共に過ごし、支え合っていく関係を築いている。ご本人をよりよく理解するために気付きを大切にしながらケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や面会の時に利用者様の近況を報告すると共に、外出・外泊の協力をお願いするなど利用者様との関わりが継続していけるように働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの理美容室へ行く事や友人・知人の面会など馴染みの関係が途切れないよう配慮している。	馴染みの商店や理美容院の利用は家族の協力を得て支援している。また、訪問理容を受け入れている。利用者の友人、知人の訪問もあり、これまでの関係が少しでも長く続けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの状態に合わせたコミュニケーションがとれるよう声掛け等を工夫しユニットの環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も支援が途切れないように利用者様・ご家族との良好な関係が継続・維持できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で見える利用者様の希望や意向を普段の会話の中から汲み取り、ケース会議時に情報を共有している。	日常の会話やしぐさから思いや意向の把握に努めている。また、全職員が利用者の何気ない独り言なども聞き漏らさないように気を配っており、把握した意見等はスタッフ会議で検討し、利用者の個性や心身の状況にあわせた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりから利用者様の生活歴や生活環境等の情報を拾いあげられるよう傾聴し、把握する。また、ご家族やご友人の面会時などに、入居前のご本人の様子を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の普段の生活の様子を観察し、ケース記録に記入している。その記録をスタッフ間で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の能力が最大限に活かされたり、希望に沿ったサービス計画が作成できるようにケース会議で話し合いを行っている。	個別記録をもとにモニタリングを行ない、現状を把握し利用者本位の介護計画を作成している。また、日常の利用者の変化を記録し検討会議等で話し合い、利用者の現状に合った介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりのケアについてケース記録に記入し、スタッフ間での情報の共有を行い、ケアの実践につなげている。ケース記録はケース会議時に活用し、介護計画の見直しに役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況に応じて対応している。利用者様の入院時の洗濯物の対応や通院などの対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に職員と利用者様と参加する機会を増やし、交流する機会を設けている。また、ボランティアをホームへ招いたり、買い物へ出掛けるなどの楽しみの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様と御家族の希望を大切にして定期的な通院や往診の対応をしている。主治医や御家族との連絡を密にとるよう心掛け、適切な医療が受けられるように働きかけている。	かかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族の同行を基本としているが職員が対応する場合もある。また、かかりつけ医から定期的な往診もある。受診後は家族と事業所双方が結果を報告し、情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職が1名配属されており、週1回健康管理をしている。利用者様の変化や不安な事を報告・相談し、受診等の対応へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合には、面会に伺い、安心できる声掛けと、状態確認を行っている。医療相談員や御家族と情報を共有し、退院に向けての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化及び終末期についての説明を行い、同意を得ている。研修を通して全職員が意識の共有化に努め、ホームで出来ることの指針を説明している。また、主治医、ご家族との話し合いの場の支援を行っている。	重度化や終末期における指針は整備されており、利用時に利用者、家族に説明し、事前確認書を交わしている。また、重度化した場合には医師、家族と十分話し合い家族の意向に添って対応している。また、ターミナルケアについては全職員が情報を共有して実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人のマニュアルにより対応に備えている。また、地域の病院主催や消防署救急隊による研修に参加し、応急手当等を学び実践力を身につけられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練には、元消防署関係者により指導を得ている。また随時、勉強会なども取り入れている。運営推進会議時に訓練をあてるようにして、委員の方にも参加して頂き、地域の協力体制を築いている。	事業所では防災の意識が高く、毎月あらゆる災害を想定した訓練を実施しており、実施記録も整備されている。消防署立ち合いの訓練は年2回実施している。訓練時には地域住民からの協力もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを傾聴し、ご本人の訴えは否定せずに、受容している。利用者様を尊重し、排泄時の声掛けなどは、耳元で他者に聞こえないような配慮を行っている。	全職員が利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者へ対しての言葉遣いや対応について徹底している。トイレや入浴時の声かけ等には細心の注意を払い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、希望を汲み取り、買い物の希望であれば、通院の帰りを利用して買い物を行っている。利用者様の希望が出やすくなるように日々の会話の機会が多く取れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、その日の体調によってホールや居室など過ごしやすい場所で過ごして頂いている。また、行事や体操への参加も強制せず、体調や気分に合わせて参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と一緒に入浴前の衣類準備を行い、気温等に配慮しながら、好みの物を選択して頂いている。また、希望者には、色付きリップやマニキュアを利用しておしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材は配送されてくるが、その中で利用者様の希望を取り入れてメニューを変更することもある。また、一緒に食事することで、会話の中から味付けや硬さなどの好みを把握している。	職員は食事が楽しいものとなるよう常に利用者から希望を聞いている。食事は職員も利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら食事を楽しんでいる。利用者の状況により、おかゆや刻み食等にも対応している。また行事食も多く実践し利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分量をチェックし、摂取量の確保をしている。体調や口腔内の環境に配慮し、OS-1ゼリーやエンシュア、ミキサー、刻み食等、食べやすい形態の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の義歯洗浄やうがい、歯磨きなど一人ひとりの口腔状態を把握し、状態に応じたケアの支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや排泄動作を把握し、支援を行っている。尿・便意を感じにくくなっている利用者様に対しては排泄パターンを観察して、トイレへの誘導を行っている。	排泄の自立に向け、排泄チェック表を活用している。適切な誘導によりトイレでの排泄を支援することによりオムツ等の使用軽減につながっている。支援においてはプライバシーを考慮して行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や乳製品、果物等を食事やおやつに提供している。また、午前と午後に軽体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のバイタルや体調を確認し入浴して頂いている。利用者様の希望に合わせて入浴する時間を調整し、入浴剤などを使用し楽しんで頂けるよう支援している。	入浴は利用者の希望により支援している。入浴拒否者には声かけのタイミングや職員を変えて対応している。近くの温泉施設の利用もあり、利用者から好評である。入浴できない利用者にはシャワー浴・清拭等で対応している。菖蒲湯・ゆず湯・リンゴ湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意思を尊重し、居室で休息して頂いている。居室内には温度湿度計を設置し、快適な空間になるよう調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容を把握し、名前や日付などを声に出して読み上げ、誤薬にならないよう注意している。症状に変化がみられた場合には申し送りや日誌に記入し、報連相を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きや洗濯物たたみを役割としてお願いしたり、平屋の特徴を活かして1・2ユニット間の歩行運動を通して、他ユニットとの交流を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブを兼ねて、買い物や季節を感じられる外出など利用者様の希望を取り入れている。ご家族様にも協力して頂き、外食や自宅へ出掛けられるよう支援している。	事業所では季節ごとに花見や紅葉狩りなど外出の機会を計画し、実践している。また、散歩、買物、公園散策、プランターでの花栽培を通して外気浴を楽しんでいる。同法人の事業所と合同の音楽療法等の行事に参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホームでの管理を行っているが、買い物の際には、自分で支払いができるように所持して頂いている。金銭の使用状況は毎月、ご家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のあった場合には電話や手紙の代筆を行っている。ビデオレターのやり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に整理整頓に心掛け、明るく清潔に保ち、居心地の良い空間作りに努めている。また、利用者様手作りの季節の掲示物を飾り、季節感を感じられるよう工夫している。	共有空間は明るく広々としており、テーブル等は利用者の行動を妨げないように配置されており、空調等に気を配り居心地よく過ごせるようになっている。長い廊下は運動にも最適である。壁には工作物などが綺麗に飾られている。利用者はそれぞれの場所で自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞やテレビ鑑賞、他ユニットに自由に移動できるよう、個々の気分に合わせて過ごせるよう配置の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者様の大切にされていた馴染みの家具や写真、絵画などを入居時に持ち込んで頂き、居心地良く安心して、その人らしく過ごせるようにしている。	利用者がそれまでの生活が継続できるよう使い慣れた家具やテレビなど自由に持ち込み、安心して生活できるよう配慮されている。利用者それぞれ個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全に自立した生活が送れるように個々の残存能力の把握をし、手すりの位置の見直しなどを行っている。		